

9月10日（月） 海外実地研修 16日目

自然・景観班の細測です。18日間の海外実地研修の16日になりました。

本日はフィンランドの首都ヘルシンキにて海外実地研修における最後の班行動を行いました。ヘルシンキはトラムが卓越している事が特徴の一つです。またコペンハーゲンと同じく自転車の利用が多く街中にも多くの自転車専用道路やレンタサイクルが見られました。しかしコペンハーゲンに比べて自転車事情が整備されていない事が気になります。ヘルシンキは大陸氷河に削られた岩盤の上に形成された街、氷河に削られた岩盤は勾配が激しいことが特徴です。実際に歩いてみて感じましたが、この街結構歩きづらいのです。また公共交通に関して、ヘルシンキはコペンハーゲンを遥かに凌駕していると感じますが、それは自転車を含む道路の整備が難しかったからこそ発展した。



写真1 ヘルシンキの自転車専用道路



写真2 ホテルに設置されている

5カ国の標準時刻を指す時計。

アジアからは「BEIJING」「TOKYO」の

2つの時刻が指されている。

本日ヘルシンキを散策して気づいたこと、それはこの街のアジア人旅行客は他の国の都市より格段に多く感じます。空港には中国語や日本語の表記が見られ、宿泊しているホテルにもそれぞれの国の標準時刻を刻む時計がありニューヨーク、ロンドン、ヘルシンキに並んで北京、東京の文字が見られました。これらにはヘルシンキが東アジア諸国のヨーロッパへの玄関口を担っていることが関係していると考えられます。実際にコペンハーゲンやオスロには日本から直行便が飛んでいるものの1日1本しか飛んでおらず、対してヘルシンキへは1日2本も飛んでい

ることや別のヨーロッパ諸国への飛行機の乗り継ぎ案内が多く表記されていたことなどからもヘルシンキが東アジア諸国、特に日本にとってのヨーロッパの玄関口となっていることが分かります。



最後に海外実地研修を通じて北欧5カ国のうち4カ国を訪れましたが、ヘルシンキに限らず共通して1階がカフェや土産物店など商売を営んでいて2階以上が住宅となっている形の建物が非常に多いと感じられます。

(筆者:細渕有斗)

写真3 1階で商業を営み2階以上が
住むことができる空間となっている建物。